

学校教育目標		ふるさとに誇りをもち、心豊かでたくましく 未来を拓く上内っ子の育成		重点目標	自分の思いや考えを伝え 認め合い、自ら行動できる子ども			
		評価計画		自己評価		学校関係者評価	改善計画	
重点目標	重点目標	目標達成のための方策(取り組み指標)		成果指標		結果(成果○と課題△)		
		目標達成のための方策(取り組み指標)	成果指標	評価	結果(成果○と課題△)	評価	コメント	
重点目標	○学力の向上 【TK式テスト】 ・国語科、算数科→全国平均CD層の減少	○自分の思いや考えを図や言葉を使って整理して書く(国語・算数)	○授業への意識(児童評価3P以上) 3.8P (教師評価3P以上) 3.4P	4	○自分の考えを再構成させ理解を深めさせることができた。	A	・自己評価は適切である。 ・先生方はすごく頑張っている。	・自分の思いや考えを図や言葉を使って整理して書く時間を設定する。
		・毎時間10分考えを書く時間の設定	○授業への意識(児童評価3P以上) 3.7P (教師評価3P以上) 3.8P	4	○交流活動において、互いの考えを聞くだけでなく、質問、付加等ができるようになってきた。	A	・授業態度や発表の姿がとてもよい。 ・授業参観を何度も行ったがみんな真剣で真面目に上手に取り組んでいると思った。	・自分の考えを出し合ったり、相談し合ったりする交流活動の充実を図る。
		○考えを伝え合う授業の実施 ・相談・出し合いタイム(ペアやグループ) ・相手の思いや考えを聴いて、質問・感想	○漢字・計算検定合格率80%以上 達成	4	○基礎・基本の定着を図り、検定後頑張った満足感を体感できている。	A	・一人一人が自分の意見を発表することが出来ていて感心した。	・教師が互いに授業を公開したり、交換授業や合同授業を行ったことで、授業改善に取り組む。
		○基礎学力の定着を図る取組の実施 ・上内っ子タイムの実施(音読・計算・言語) ・漢字・計算検定の工夫(言語・文章題) ・ICTの活用、少人数やTT授業等 ・家庭学習の工夫(自学コーナーの設置)	○課題図書達成80%以上 達成 ○ICTを活用した学習(全学年活用) 達成 ○自学の取り組み(児童評価3P以上) 3.6P (教師評価3P以上) 3.6P	4	○学年に応じた教師の推薦本を読むようになってきた。 ○タブレットの活用は、授業や自学で個別最適な学習に有効であった。	A	・自分の考えの再構成や交流活動を通して、子どもの力を高めていることが姿となって表れていると思う。	・家庭学習に自主学習を位置付け、内容の充実を図る。
		○学びの7か条を生かした学習規律の定着 ・学期ごとに取組を重点化して評価する	○学習規律の定着率(児童評価3P以上) 3.7P (教師評価3P以上) 3.8P	4	○学習規律の徹底を図ったことで、全学年落ち着いた学習に取り組むようになっている。 △学力テストの結果から読解力が課題である。			・子供新聞や課題図書を活用し、要旨をまとめる取組をする。
関連する評価	○自尊感情と思いやりの心の向上 【生活アンケート】 2項目全て80%以上 ・自己概念 ・友だちとの関係	○道徳の時間と学級活動、行事、体験活動との関連指導 ・自己の振り返りと望ましい行動への意欲付け・キャリアパスポートの取組	○自己概念のポイント(1.0P以上) 1.2P	4	○日常生活で生かせるように、自己の振り返りに関して、今までの自分とこれからの自分について考える時間に重点をおいたのは有効であった。	A	・自己評価は適切である。 ・児童に接すると、積極的に立ち止まり挨拶をしてもらえる。	・道徳の時間では、これからの自分について考える時間の充実を図る。
		○基本的な生活習慣の育成 ・あいさつ運動の推進(自分から挨拶)	○道徳の時間の指導(教師評価3P以上) 3.4P	4	○挨拶については、「相手に気持ちが伝わるようにできる」と内容の向上が図れた。	A	・自分について考える時間を作っているのは自分の長所や短所が分かりよいと思う。	・基本的な生活習慣(挨拶、掃除、履き物をそろえる、正しい言葉遣いをする等)を身に付けることの意義を児童に理解させると共に、高学年が手本を示し、自治的な活動を行わせる。
		・スリッパ並べの徹底 ・高学年リーダーを中心とした掃除	○あいさつ名人(教師評価で、ポイントの入った児童80%以上) 達成 ○掃除名人(教師評価90%以上) 達成	4	○高学年を見習って下学年が掃除を行う良い取組ができた。	A	・高学年と低学年が仲良く一緒に行動ができ学び遊べる事をうれしく思う。	・自他の良さを認め合う活動としてメルシーアーチに継続して取り組む。
		○自他のよさを認め合う活動の実施 ・メルシーアーチ(友だちのよいところ見つけ年間2回)	○自他のよさを見つける意識(児童評価3P以上) 3.8P	4	○友だちのよさに目を向けたり、自分のよさに気づいたりするよい機会となった。	A	・子どもの人間関係が良好であることが自尊感情の高まりに繋がったと思う。	・ソーシャルトレーニングを学期に1回位置付ける。
		・学期に1回、学活の時間にソーシャルスキルトレーニング	○自分の気持ちを伝える(児童評価3P以上) 3.8P ○言葉遣いへの意識(児童評価3P以上) 3.4P	4	○円滑な対人関係をつくる技能を身につけさせるために、有効であった。		・あいさつやスリッパ並べ等の指導を今後も続けてほしい。	・人間関係づくりのスキル向上を図るため異学年交流や縦割り活動を設定する。
いじめ防止	○体力の向上 【縄跳び・一輪車検定】 子ども大牟田体力検定「達人」 ランク85%以上	○体育科の学習で運動量を60%確保する。 ・毎時間の体育の授業での実施	○体育の授業への参加意識(児童評価3P以上) 3.8P (教師評価3P以上) 3.8P	4	○場の工夫や児童の意欲を引き出す手立て等を工夫し、だれもが運動する楽しさを味わう事のできる授業づくりを行うことができた。	A	・自己評価は適切である。 ・体力向上の取り組みは毎年工夫され、児童も楽しくできていると思う。	・新体力テストや大牟田子ども検定の結果を基に、児童の苦手な運動を取り入れ体力向上を図る。
		○外遊びの奨励と体力アップタイムの実施 ・毎週1回体力アップタイム ・スポコン広場の取組(他校との競争) ・体力向上に関する検定の実施(縄跳び・一輪車)	○運動・外遊びの意識(児童評価3P以上) 3.9P	4	○毎週の体力アップタイムやスポコン広場の取組、なわとび・一輪車検定などを位置づけ、年間を通して運動する機会を作ることができた。	A	・よく取り組んである。年間を通して取り組むことが大切であると思った。	・体育科の授業では、技能に応じた場の工夫とICTの活用を図る。
		○生活・総合的な学習の時間で、地域の人・もの・ことを活用する。 ・他校との交流を推進	○授業への意識(児童評価3P以上) 3.8P (教師評価3P以上) 3.4P	4	○G.Tの協力、体験活動の充実を図ったことで地域のよさや思いを実感できた。	A	・自己評価は適切である。 ・体験活動や他校との交流は素晴らしい。児童は良い体験をしている。	・地域の「人・もの・こと」を生かした教材開発を行い、持続可能な社会についての学習を深める。
		○地域へ学んだことの発信・行動化へ向けた取組をする ・総合的な学習の時間で見つけた地域のよさの発信(単元に1回の発信) ・学習の振り返り、行動化(年1回以上)	○発信への意識(児童評価3P以上) 3.9P (教師評価3P以上) 3.4P	4	○学校HP、学校便り、FMたんと放送等、実施できることを考え地域や他校への発信に取り組んだ。	A	・お米作りから販売まで体験できることは勉強になり、今後生かせる。	・ICT機器の積極的な活用し、学習したことを広く外部に発信する。
		○職員研修(学期に1回)、いじめ防止対策委員会(年3回以上)の実施 ・児童理解会議の実施(月1回)	○行動化への意識(児童評価3P以上) 3.6P (教師評価3P以上) 3.4P	4	○他校とのTV会議、米販売等交流や発表の場では、上内校区の良さに目を向け、発信することができた。		・地域の学校、地域に支えられている学校だとよく分かった。	・地域の方に学習成果を発表する場を多く設定し、地域とのつながりを強め、郷土愛を育む。
不登校防止	いじめのない学校づくり 個性を認め合い、お互いを大切にする子	○生活アンケート、教師チェックリストの実施(月に1回)	○学校生活アンケート(友だち関係に係る満足度1.0P以上) 1.4P	4	○職員全体で児童の様子を把握したりアンケートの実施後の面談、対応、保護者との共有を行い(記録の保管)、早期解決を図った。	A	・自己評価は適切である。 ・いじめについて早期発見・早期対応してありお互い納得できているので安心した。	・児童や保護者によるアンケートや日常生活の観察によって、早期発見に努める。
		○アンケートを生かした教育相談の実施(毎回)	○いじめの実態把握(児童理解)(教師評価3.0P以上) 3.8P	4	○状況の把握・対応(指導・経過観察・ケア)・報告・共有を行い、早期対応を図った。	A	・苦しむ子どもは見たくないで今後も対応をお願いします。	・全職員で日常的に情報交換を行い迅速な対応ができるようにする。
		○職員研修(学期に1回)、いじめ防止対策委員会(年3回以上)の実施 ・児童理解会議の実施(月1回)	○認知したいじめの解消(100%解消) 達成	4	○職員と児童の関係は良好であり、教育活動全体において、子どもたちを職員全員で育てることができた。	A	・不登校児童が全員学校に登校できる取組をお願いします。	・縦割り活動(給食・遊び・掃除)を設定し、仲間作りを図る。
働き方改革	不登校を出さない学校	○登校意欲の向上 ・わかる授業の実施(毎週計画案提出による量的、質的管理) ・学習が遅れがちな児童への取組(個別学習等)	○登校意欲(学校生活アンケート1.0P以上) 1.3P	4	○児童と保護者への定期的な連絡を行った。また、SCや関係機関と連携し、組織的に対応している。	A	・自己評価は適切である。 ・上内に関して不登校は家庭の問題だと思う。	・福岡アクション3の未然防止の取組の徹底を図る。
		○不登校児童への組織的取組 ・福岡県不登校児童生徒支援ランドデザインに基づいたアクション3の実施 ・SC、SSW等との連携	○学習への意欲(学校生活アンケート1.0P以上) 1.2P ○不登校児童出席日数(100日以上) ほぼ達成	3	△組織的なアプローチを継続して、不登校児童解消へ粘り強く取り組む。	A	・先生方一人一人が児童としっかり向き合って一生懸命に指導している。	・児童の些細な変化にも気付くことができるように、研修の充実と職員同士の情報交換を密にし、組織的対応に努める。
		○週案作成による計画的な業務遂行を徹底する。(毎週作成) ・交流授業や近接学年との授業の実施	○教師の意識向上(教師の意識3P以上) 3.8P	4	○2ヶ月先の予定を見据え、月案、週案作成にあたることで、見通しを持って、カリキュラムを進めることができた。	A	・自己評価は適切である。 ・子供達の問題が全国的に増加してきているが上内小は大丈夫だと思ふ。先生方も無理をしないように願う。	・教職員の適性な勤務と意欲の向上を図るために、2ヶ月先の月案や週案、週指導計画の効果的な活用を行う。
働き方改革	教職員の適正な勤務と意欲の向上	○超過勤務者の把握と改善に努める。(毎月1回)	○昨年度比超過勤務時間1割減 達成	4	○定時退校日を設定し、タイムマネジメントに力を入れた。また、協働して仕事を行い、組織的に取り組むことができた。	A	・見通しを持って対応していることで成果が出ていると思う。	・組織的にタイムマネジメントに取り組む。放課後に教材研究、授業準備、学級事務の時間を確保し、超過勤務の削減を図る。
		○行事等の見直しを図り、協働体制を確認する。(学期に1回見直し) ・学級事務の時間の確保、定時退校日の設定(週1回)、電話対応時刻の設定等	○働き方改革に関する見直し(教師の意識3P以上) 3.4P	4		A	・見通しをもって取り組んでいる。	

◇ 評価について
 ・【自己評価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%) 1:できていない(60%未満)
 ・【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである

令和5年度 学校評価報告書

評価計画		自己評価		学校関係者評価		改善計画		
領域	評価の観点	評価指標(①取組指標または②成果指標)	評価	結果(成果と課題)	評価	コメント	次年度における改善策(案)	
総括的評価	教育課程 学習指導	計画的な教育指導の実施と評価	4	○週案での時数管理や学習内容のチェックを行い教室訪問で見取りを行っている。 ○学力検査において、6学年中5学年は市平均以上であった。	A	・自己評価は適切である。 ・勉強もスポーツも頑張っている。 ・自然の環境で様々な経験ができるのは上内のよさである。	・週案の作成について、指導計画と照らし合わせ計画を立てるとともに、主題研修での授業づくりを毎時間意識して取り組んで行く。	
		学力の定着 地域の特色を生かした学習	4	○標準学力検査の結果が全国平均以上 ○地域の自然や人材を生かした生活科や総合的な学習の時間の実施	A	・上内小の特色ある教育活動が展開されていると思う。	・学習サポーターの計画的活用や個別に指導を行う。	
	進路指導	小中一貫教育の推進	3	△小中一貫教育を見据えた取組が不十分なので具体的な取組を検討する。	A	・自己評価は適切である。 ・見守りの時に挨拶をする児童は家庭や学校生活の事実を感じる。	・現在中学校区で取り組んでいる「学級づくりと個別最適な学習」において、共通理解を深め小中が一貫した取組を実施する。	
		勤労観の育成	4	○優秀な児童を表彰しながら挨拶や清掃活動に取り組めた。	A	・中学再編を控え他校との交流等が必要。		
	生徒指導	いじめ・不登校への組織的対応	3	○各種アンケートや委員会の会議を実施している。 △不登校児童について関係機関と連携し対応を行っているが変化が見られない児童がいる。	A	・自己評価は適切である。 ・生活いじめアンケートの実施で早期対応ができると思う。	・いじめの未然防止に重点を置き、縦割り活動を充実させ、子ども同士の人間関係を深める。	
		問題行動への組織的対応	4	○薬物乱用防止教室、規範意識スマホ等によるいじめ防止の学習を実施する。(各1回)	A	・よく子供達の実態を把握されている。 ・学習会も必要だと思う。続けて欲しい。 ・不登校対策として、学級の保護者だけでの話し合いの場があるとよいのでは。	・早期発見のためのアンケートや様相観察等細やかに見取っていく。 ・不登校傾向児童の減少を図るため、保護者同士の情報共有を密にする。	
	保健管理	保健管理体制	○健康診断後の事後措置(年3回) ○保健室調べの実施、点検、報告(毎日) ○保健目標に応じた掲示物や保健便りの作成(月1回)	4	○日々の児童の健康管理を毎日の健康観察調べで行っている。 ○毎月目標に応じて保健室前の掲示物や保健便りの発行で啓発を行った。	A	・自己評価は適切である。 ・掲示物で健康に関する興味を高めていることはよいと思う。 ・掲示物などがとても充実している。	・子ども一人一人の健康観察を確実にし、担任や養護教諭、管理職で十分共通理解を図っていく。 ・計画的に毎月テーマを決め啓発を行う。
			安全管理	4	○安全点検を職員全員で確実に実施し、早急に対応を行った。 ○児童民生委員の協力のもと毎日の登校時の見守り活動を行っている。 ○定期的な集団下校訓練や災害時の訓練を実施することができた。	A	・自己評価は適切である。 ・毎日の見守り活動により児童も安心して登校できていると思う。 ・通学路の安全登校に十分配慮している。 ・児童・保護者にも改めて安全な登下校について説明した方がよい。	・毎月の安全点検の徹底と質の向上を図る。 ・危険箇所や修理が必要な箇所を発見したらすぐに修理等の素早い対応を行う。 ・事前予告なしの避難訓練を実施したり、様々な状況を想定したりした避難訓練を実施する。
	特別支援教育	特別教育支援推進体制	○教育支援計画と個別の指導計画の作成とその実施と評価(学期1回) ○特別支援教育についての校内研修会の実施(年1回) ○全職員による児童理解会議の実施(月1回)	4	○教育支援計画と個別の指導計画の作成、実施、評価及び校内研修会修を定期的実施することができた。 ○全職員により児童理解会議を実施し、児童に対して共通理解と共通の対応を行った。	A	・自己評価は適切である。 ・個別の支援・指導により児童が伸び伸びと学んでいる。 ・先生全員で子ども理解に努めている。 ・子どもの特性を把握できているのはその子にとっても心強い。	・個別の支援計画を基にした協議を全職員で行い、共通理解を図りながら随時支援計画を改善していく。 ・定期的に職員の共通理解を図る場を作る。 ・特別支援教育支援員と保護者との情報交換ができるように計画していく。
			組織運営	4	○定期的に職員との面談を行い、各自の目標達成に向けて話し合った。 ○二部会を実施し学力面の向上や生活面での課題について検討することができた。	A	・自己評価は適切である。 ・研修等を通して学力向上や運動会、学習発表会等素晴らしい効果が出ている。 ・重点目標達成に向けて取り組んでいる。	・二部会において、事前の計画的な打ち合わせと、事後での全体共有で決定した事を同一歩調で学級や全校で必ず実施していく。
研修	校内研修体制 不祥事防止	○講師招聘による研修会の実施(年2回) ○主題研・道徳・学活の授業研の実施(各1回) ○不祥事防止研修会の実施(月1回以上)	4	○指導主事を招聘した研修や校内の授業研究を計画的に実施することができた。 ○不祥事防止研修会を討議形式で行うことができた。	A	・自己評価は適切である。 ・計画的な研修を実施しているのはよい。 ・研修には新たな発見や学びがあるので研修を続けてほしい。	・講師を招聘し理論と実践の両面から主題研究をブラッシュアップさせていく。 ・自分事と思えるように全教員が一回は司会者となって研修を進めるようにする。	
		教育目標 学校評価	4	○各学期の終わりに学校の評価活動を行い、次学期や来年度の改善点に繋げた。 ○学校関係者評価委員会を実施し学校の教育活動に意見を頂くことができた。	A	・自己評価は適切である。 ・学習態度のよさに感心した。 ・改善点を見つけて次年度へ繋げている事で教育活動がうまくいっている。	・重点目標の達成に向けて、取り組めたかを児童へのアンケート調査で分析する。 ・今年度同様、学校行事にはできるだけ学校関係者評価委員会の方に参観いただく。	
情報提供	地域・家庭への情報提供	○学校通信発行(月1回)学年だより発行(月1回)Mボードの活用(随時) ○学級懇談会、PTA役員会の実施(随時)	4	○学校便りや学年だより、Mボードで学校の活動を紹介することができた。 ○随時学級懇談会やPTA役員会を実施することができた。	A	・自己評価は適切である。 ・学校便りで様子が分かり楽しみである。 ・学校の様子を伝えてもらっている。 ・学校をオープンにしているのがよい。	・Mボードの活用や学校・学年通信等で情報を発信していくだけでなく、ホームページでも発信していく。 ・PTAと会議する場面を多く設定する。	
		保護者、地域との連携	4	○総合的な学習の時間(米作り等)や学校行事(すもう大会等)の連携(随時) ○まち協議や民児協議への参加(月1回) ○家庭学習強調週間や早寝・早起き・朝ご飯運動の推進(年3回)	4	○まち協議や民児協議へ参加し連携を図ることができた。 ○各種会議には欠かさず出席できた。 ○PTAと連携し家庭学習強調週間や早寝・早起き・朝ご飯運動に取り組めた。	・自己評価は適切である。 ・まち協や民児協議等に出席してもらえ情報が頂ける。 ・関係機関との関係づくりに尽力している。	・今後もまち協や民児協議等に出席し情報交換を密に行う ・PTAとの連携を密に行い、家庭学習や基本的な生活習慣等について連携して取り組む。
教育環境整備	教育環境の整備と充実	○教室や校舎内外の施設などの点検・整備の充実(随時) ○計画的な配当予算の執行により、新規備品の購入や修理・修繕の実施(随時)	4	○運動場の除草等を地域や保護者の協力のもと実施することができた。 ○購入備品を精選し学習の充実が図れるようにし不要品等の廃棄にも努めた。	A	・自己評価は適切である。 ・地域や保護者の協力で除草作業等ができてよいことである。 ・快適な環境を作るために考えられている。	・計画的に学校整備に努める。 ・今後も地域・保護者の協力を得て、学校整備に努めていく。 ・児童の学習環境の整備に努める。	

◇ 評価について
 ・【自己評価】 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70%~90%) 2：もう少し(60%~70%) 1：できていない(60%未満)
 ・【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである